

## 1 令和2年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万3,410ha（対前年産比97%）、球根類が255ha（同98%）、鉢ものの類が1,503ha（同97%）、花壇用苗ものの類が1,301ha（同98%）となった。

出荷量は、切り花類が32億5,200万本（同93%）、球根類が7,370万球（同97%）、鉢ものの類が1億9,100万鉢（同93%）、花壇用苗ものの類が5億6,560万本（同98%）となった。

表1 令和2年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫）面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫）面積	出荷量
切り花類	13,410 ha	325,200 万本（球・鉢）	97 %	93 %
球根類	255 ha	7,370 万球	98 %	97 %
鉢ものの類	1,503 ha	19,100 万鉢	97 %	93 %
花壇用苗ものの類	1,301 ha	56,560 万本	98 %	98 %

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

## 2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

### (1) 切り花類

作付面積は1万3,410haで、前年産に比べ390ha（3%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は32億5,200万本で、前年産に比べ2億3,000万本（7%）減少した。これは、作付面積の減少に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、業務用需要の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで沖縄県が8%、静岡県が6%、福岡県及び長野県がそれぞれ5%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが40%で最も高く、次いでカーネーション、切り枝及びばらがそれぞれ6%、ガーベラが4%となっている。

図2 切り花類の都道府県別出荷量割合

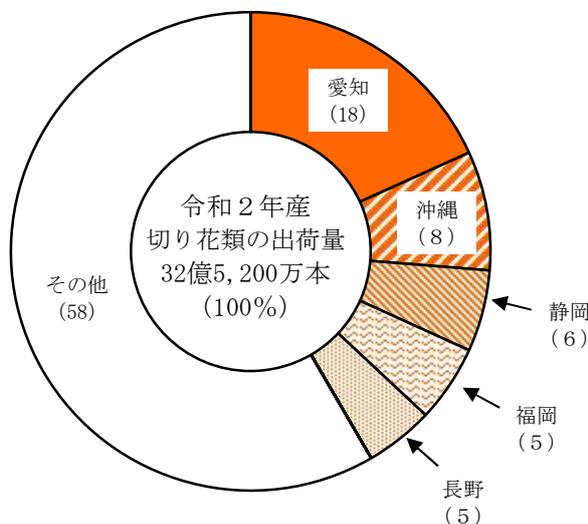


図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

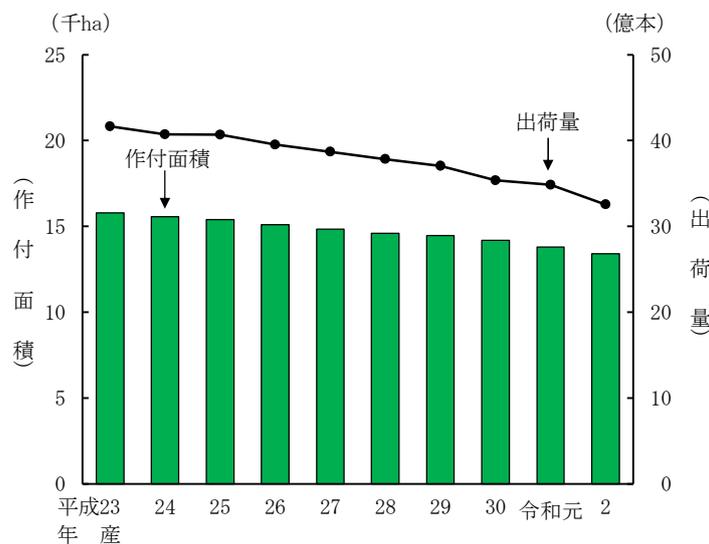
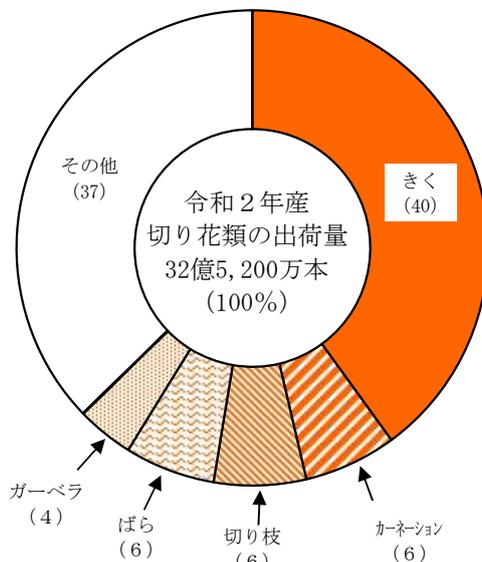


図3 切り花類の品目別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図46まで同じ。）。

表2 令和2年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
切り花類	13,410	325,200	97	93
うちき	4,314	130,000	96	92
カーネーション	262	20,610	97	93
ばら	291	20,080	96	91
りんどう	407	8,170	96	96
宿根かすみそう	196	4,660	101	96
洋ラン類	109	1,320	92	90
スターチス	168	11,800	99	99
ガーベラ	80	12,700	97	93
トルコギキョウ	411	8,800	97	91
ゆり	659	11,550	95	93
アルストロメリア	79	5,430	100	94
切り葉	581	9,190	95	75
切り枝	3,625	20,610	100	100

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

### ア きく

作付面積は4,314haで、前年産に比べ176ha（4%）減少した。

出荷量は13億本で、前年産に比べ1億1,200万本（8%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が34%で最も高く、次いで沖縄県が18%、福岡県が6%、鹿児島県が5%、長崎県が4%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

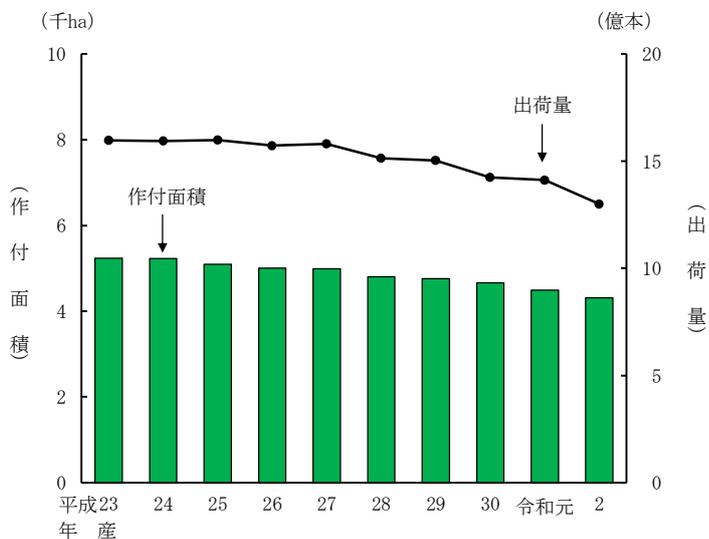
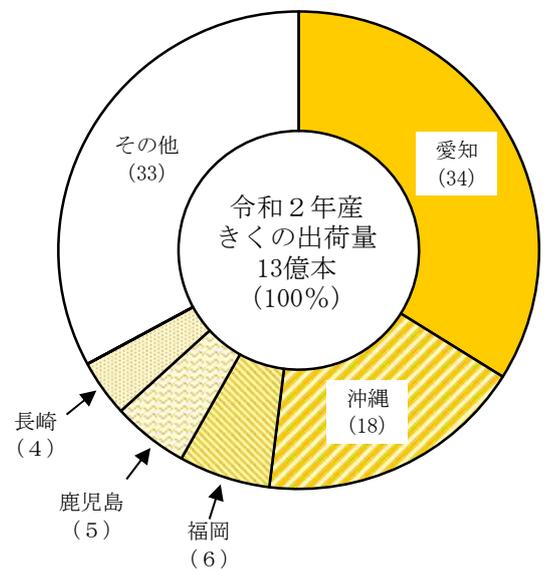


図5 きくの都道府県別出荷量割合



## イ カーネーション

作付面積は262haで、前年産に比べ9ha（3％）減少した。

出荷量は2億610万本で、前年産に比べ1,660万本（7％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が23％で最も高く、次いで愛知県が18％、北海道が10％、兵庫県が9％、千葉県が8％となっており、この5道県で全国の約7割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

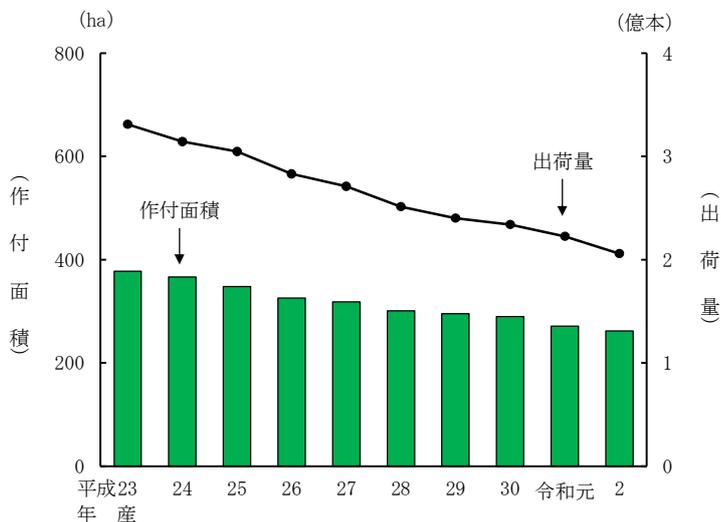
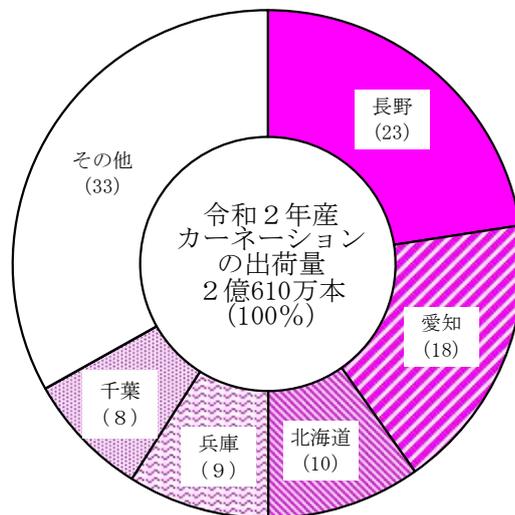


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



## ウ ばら

作付面積は291haで、前年産に比べ11ha（4％）減少した。

出荷量は2億80万本で、前年産に比べ2,040万本（9％）減少した

都道府県別出荷量割合は、愛知県が16％で最も高く、次いで静岡県が10％、山形県及び福岡県がそれぞれ7％、愛媛県が6％となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

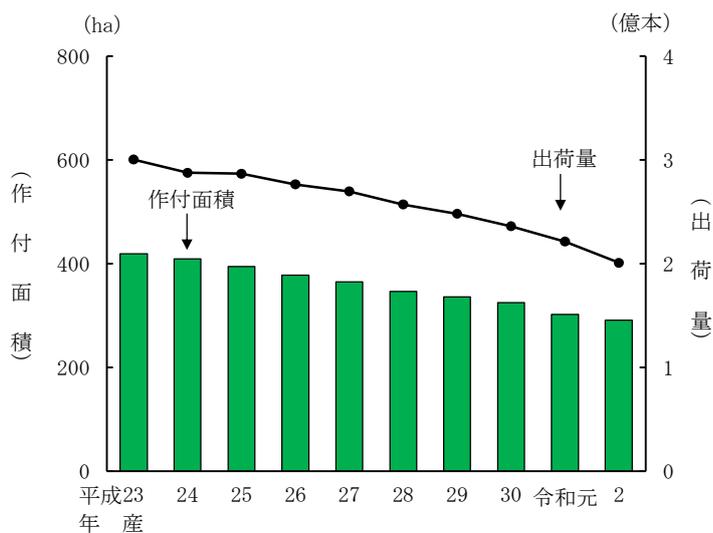
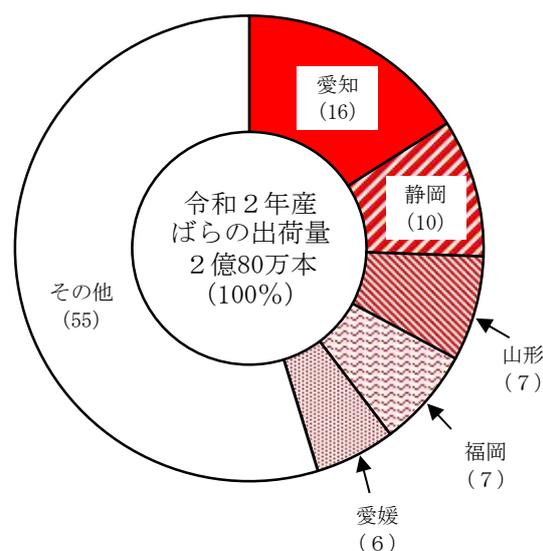


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



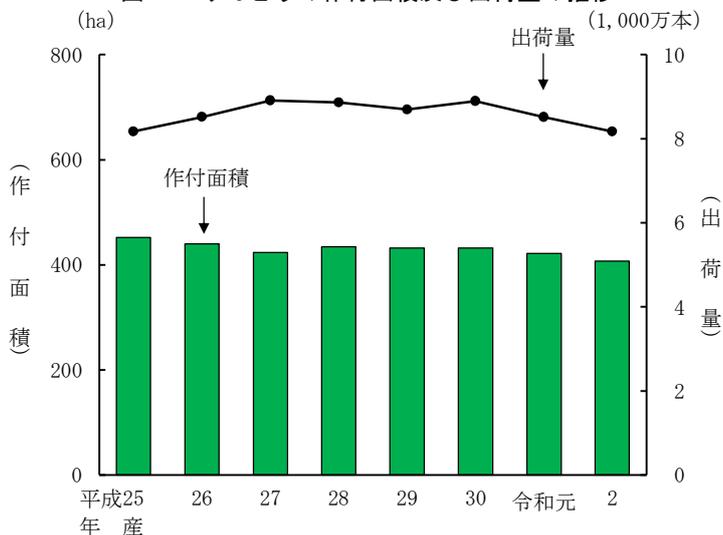
## エ りんどう

作付面積は407haで、前年産に比べ15ha（4％）減少した。

出荷量は8,170万本で、前年産に比べ350万本（4％）減少した。

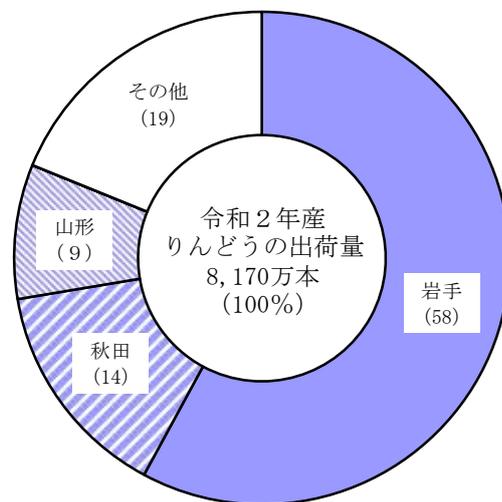
都道府県別出荷量割合は、岩手県が58％で最も高く、次いで秋田県が14％、山形県が9％となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図10 りんどうの作付面積及び出荷量の推移



注：調査対象品目の要件を満たしたため、平成25年産から「りんどう」を調査対象に追加した。

図11 りんどうの都道府県別出荷量割合



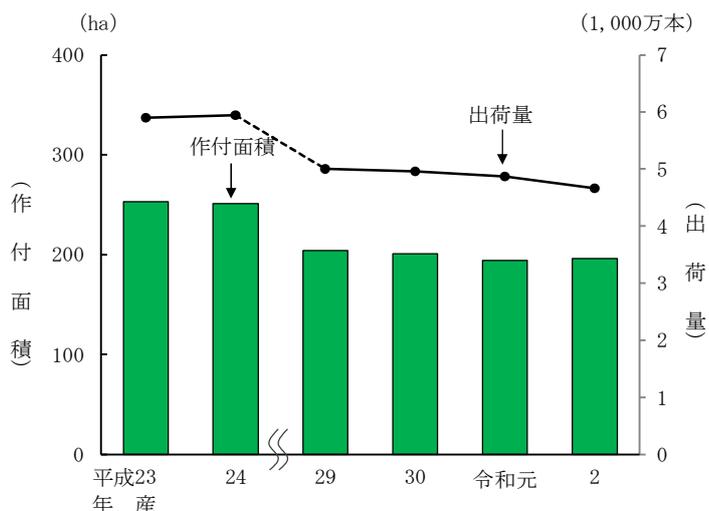
## オ 宿根かすみそう

作付面積は196haで、前年産に比べ2ha（1％）増加した。

出荷量は4,660万本で、前年産に比べ210万本（4％）減少した。

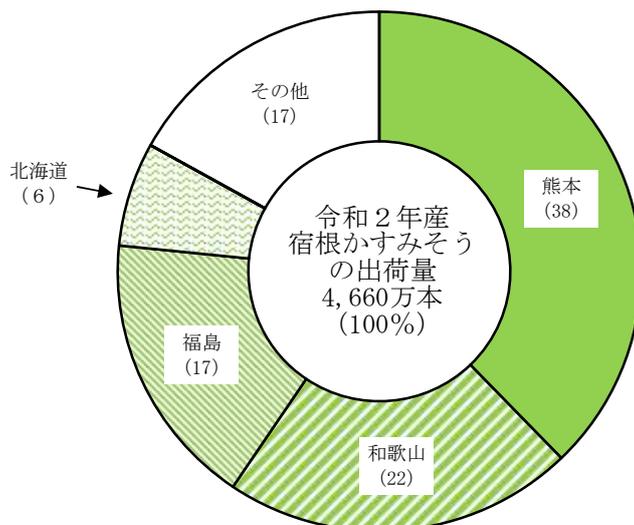
都道府県別出荷量割合は、熊本県が38％で最も高く、次いで和歌山県が22％、福島県が17％、北海道が6％となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移



注：「宿根かすみそう」については、調査対象品目の要件を満たさなくなったことにより平成25年産から調査対象から外れたものの、平成29年産から再び要件を満たしたため、調査対象に追加した。

図13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



## カ 洋ラン類

作付面積は109haで、前年産に比べ10ha（8%）減少した。

出荷量は1,320万本で、前年産に比べ140万本（10%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、徳島県及び福岡県がそれぞれ15%で最も高く、次いで埼玉県及び沖縄県がそれぞれ9%、静岡県が8%となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 14 洋ラン類の作付面積及び出荷量の推移

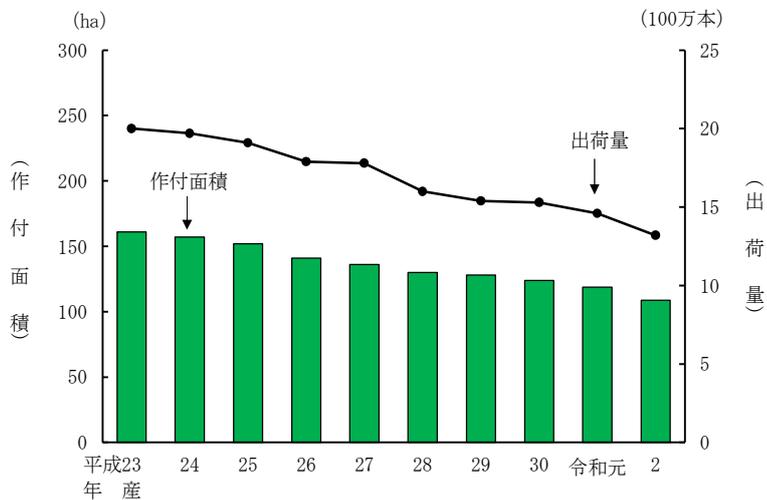
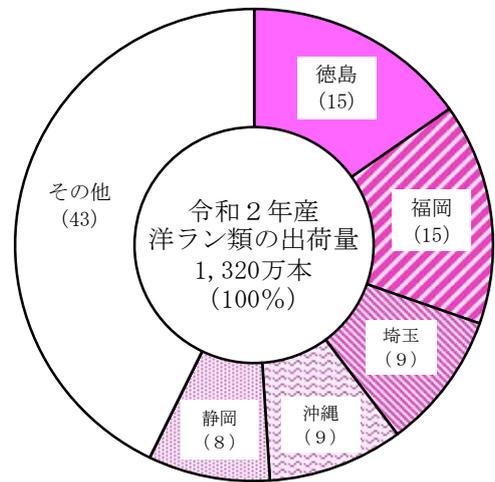


図 15 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



## キ スターチス

作付面積は168haで、前年産に比べ2ha（1%）減少した。

出荷量は1億1,800万本で、前年産に比べ100万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が55%で最も高く、次いで北海道が26%となっており、この2道県で全国の約8割を占めている。

図 16 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

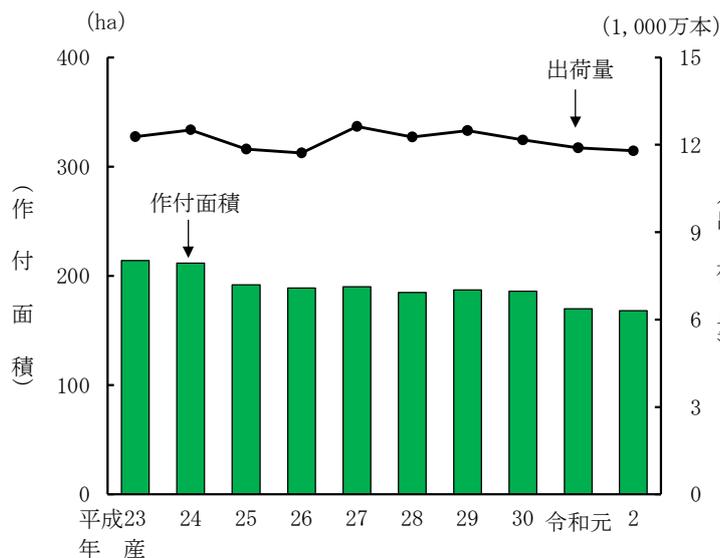
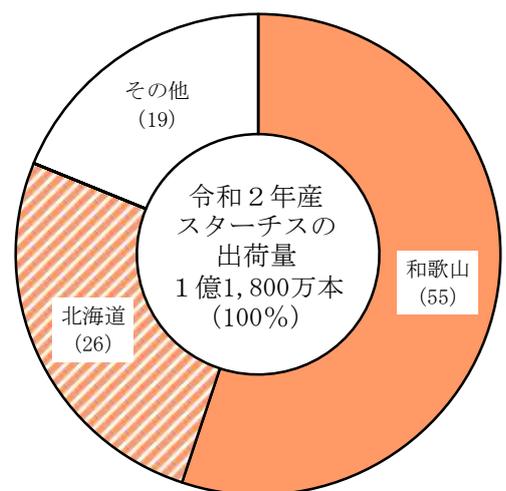


図 17 スターチスの都道府県別出荷量割合



## ク ガーベラ

作付面積は80haで、前年産に比べ2ha（3%）減少した。

出荷量は1億2,700万本で、前年産に比べ960万本（7%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が42%で最も高く、次いで福岡県が13%、和歌山県が10%、愛知県が7%、長崎県が6%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 18 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

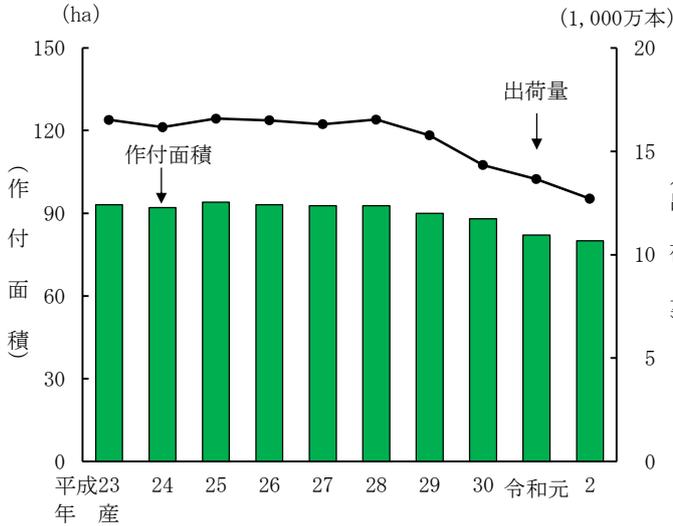
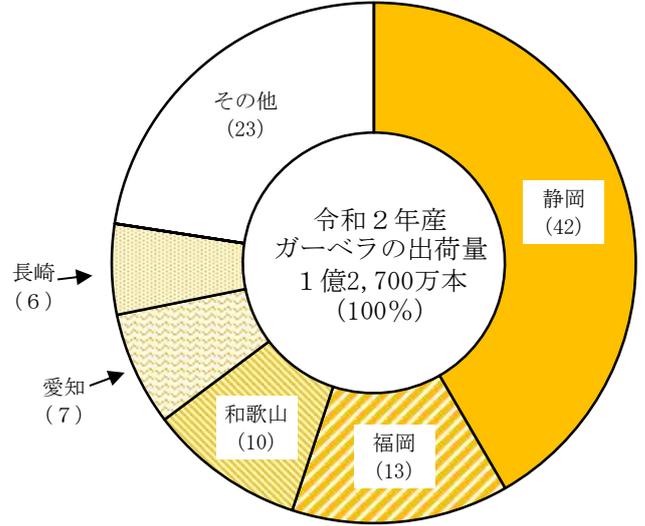


図 19 ガーベラの都道府県別出荷量割合



## ケ トルコギキョウ

作付面積は411haで、前年産に比べ13ha（3%）減少した。

出荷量は8,800万本で、前年産に比べ910万本（9%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が15%で最も高く、次いで熊本県が12%、福岡県が9%、静岡県及び山形県がそれぞれ5%となっている。

図 20 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

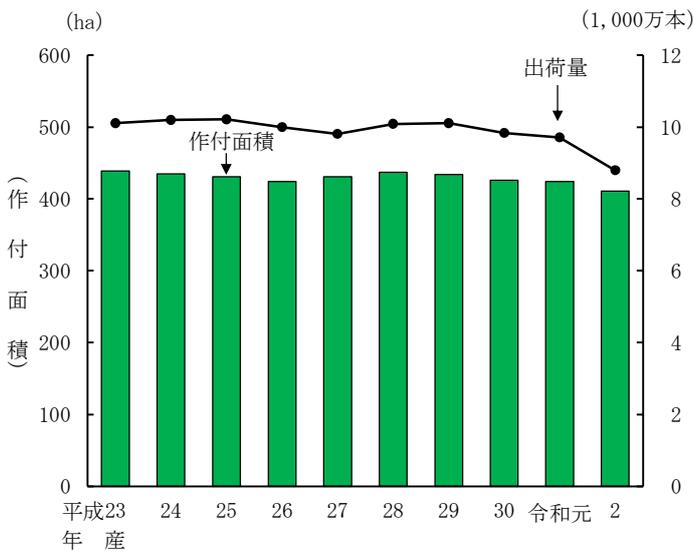
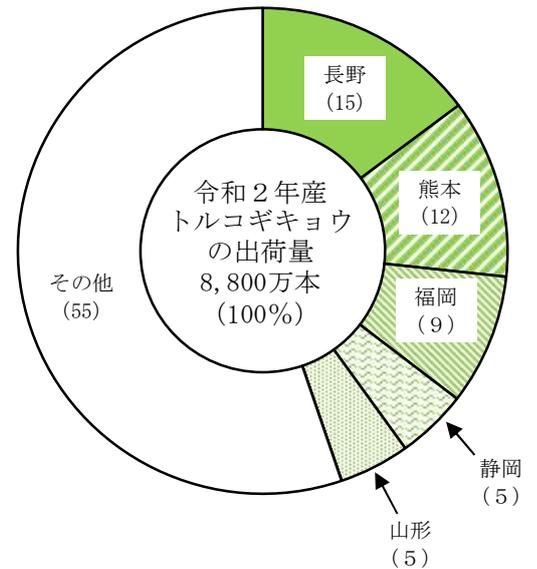


図 21 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



## コ ゆり

作付面積は659haで、前年産に比べ34ha（5％）減少した。

出荷量は1億1,550万本で、前年産に比べ850万本（7％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が21%で最も高く、次いで高知県及び新潟県がそれぞれ10%、北海道及び鹿児島県がそれぞれ6％となっており、この5道県で全国の約5割を占めている。

図 22 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

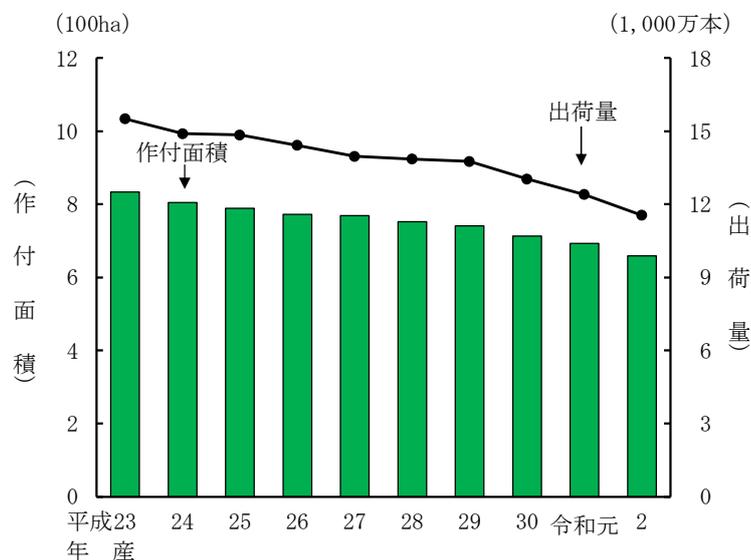
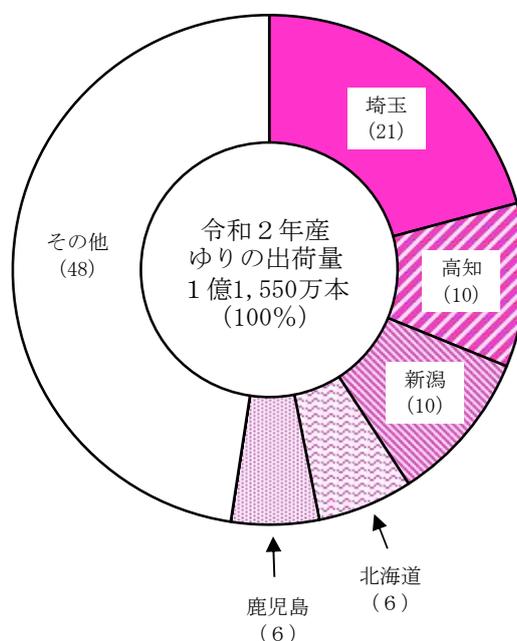


図 23 ゆりの都道府県別出荷量割合



## サ アルストロメリア

作付面積は79haで、前年産並みとなった。

出荷量は5,430万本で、前年産に比べ320万本（6％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が36%で最も高く、次いで愛知県が21%、山形県が12%、北海道が10%、大分県が4％となっており、この5道県で全国の約8割を占めている。

図 24 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

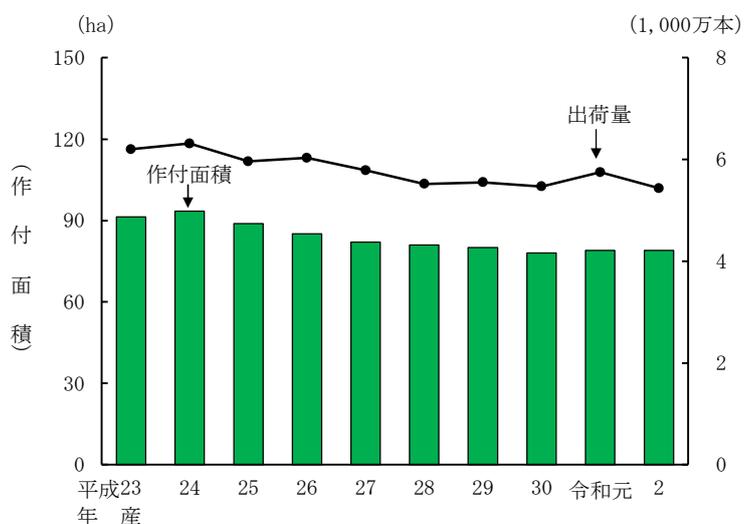
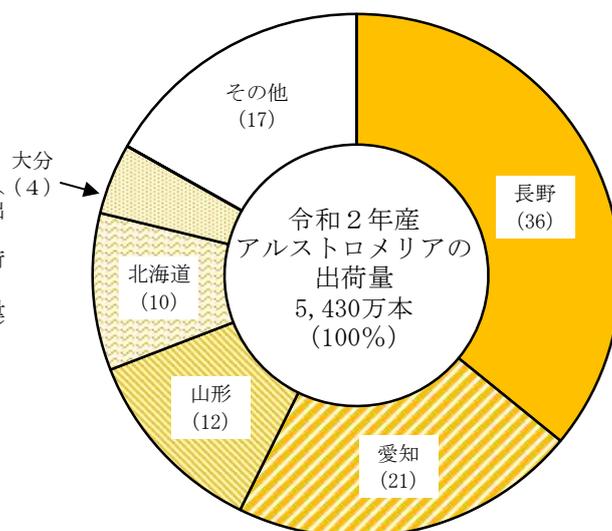


図 25 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



## シ 切り葉

作付面積は581haで、前年産に比べ28ha（5%）減少した。

出荷量は9,190万本で、前年産に比べ2,990万本（25%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、東京都が31%で最も高く、次いで沖縄県が20%、鹿児島県が17%、静岡県が7%、千葉県が4%となっており、この5都県で全国の約8割を占めている。

図 26 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

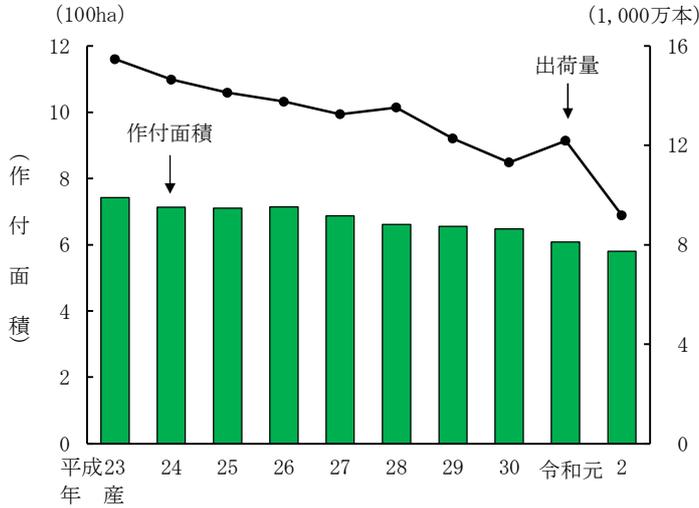
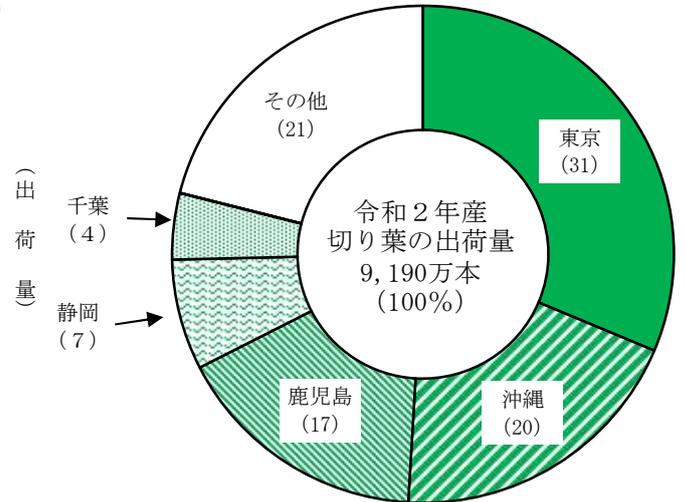


図 27 切り葉の都道府県別出荷量割合



## ス 切り枝

作付面積は3,625haで、前年産並みとなった。

出荷量は2億610万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、静岡県及び茨城県がそれぞれ15%で最も高く、次いで和歌山県が8%、宮崎県が5%、愛媛県が4%となっている。

図 28 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

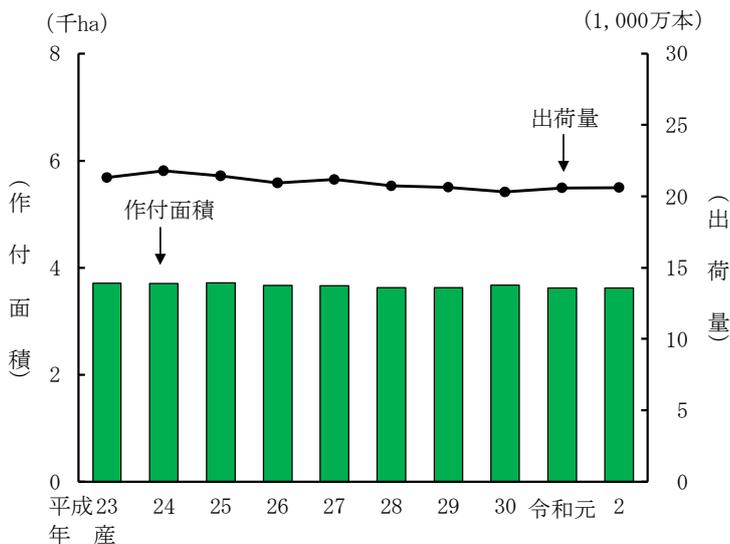
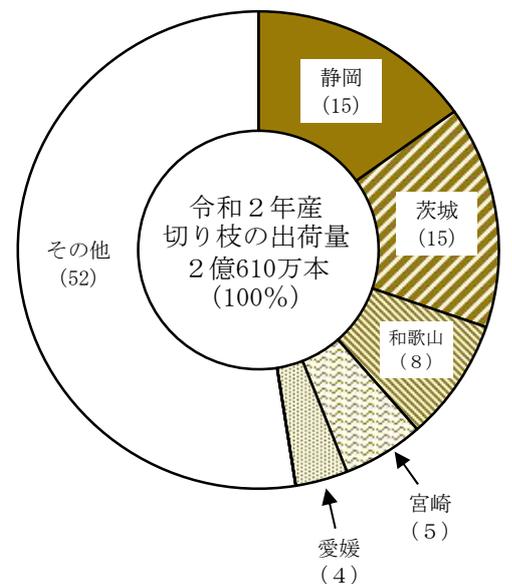


図 29 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は255haで、前年産に比べ4 ha（2％）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は7,370万球で、前年産に比べ260万球（3％）減少した。これは、収穫面積の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が22%で最も高く、次いで富山県が19%、新潟県が18%、宮崎県が8%となっており、この4県で全国の約7割を占めている。

図 30 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

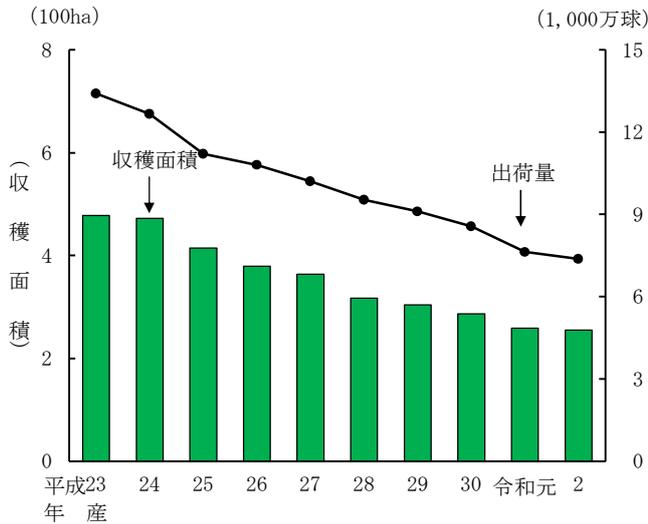


図 31 球根類の都道府県別出荷量割合

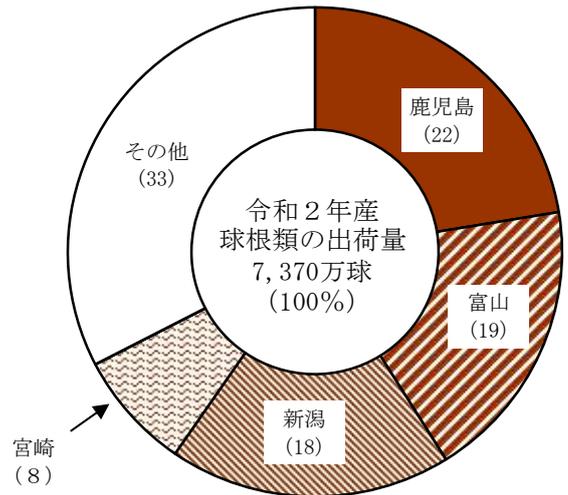


表 3 令和2年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

類 別	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
球 根 類	ha	万球	%	%
	255	7,370	98	97

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,503haで、前年産に比べ46ha（3%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は1億9,100万鉢で、前年産に比べ1,400万鉢（7%）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の天候不順の影響により生育の抑制等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が24%で最も高く、次いで埼玉県が9%、岐阜県が8%、静岡県が7%、千葉県が5%となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

品目別出荷量割合は、観葉植物が22%で最も高く、次いで花木類が18%、シクラメンが8%、洋ラン類が6%となっている。

図 32 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

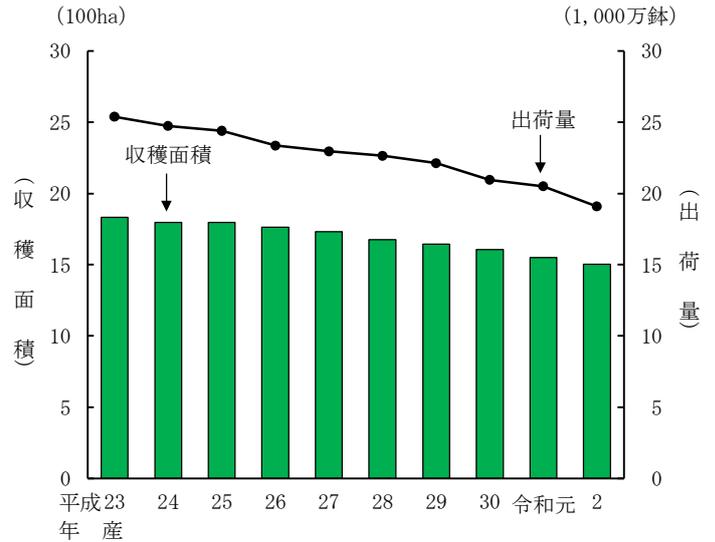


図 33 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

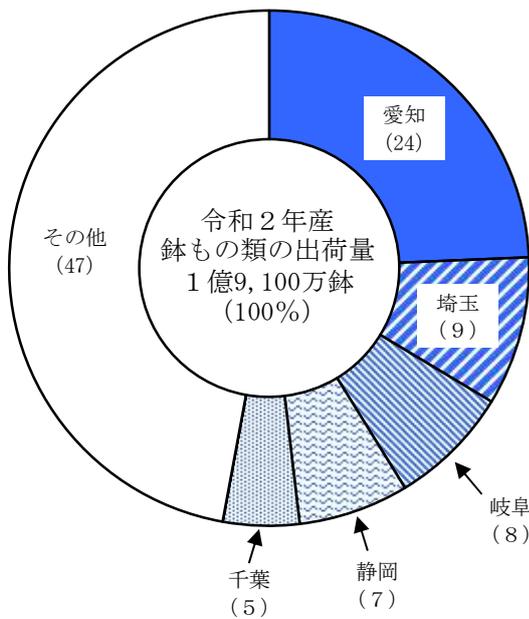


図 34 鉢ものの類の品目別出荷量割合

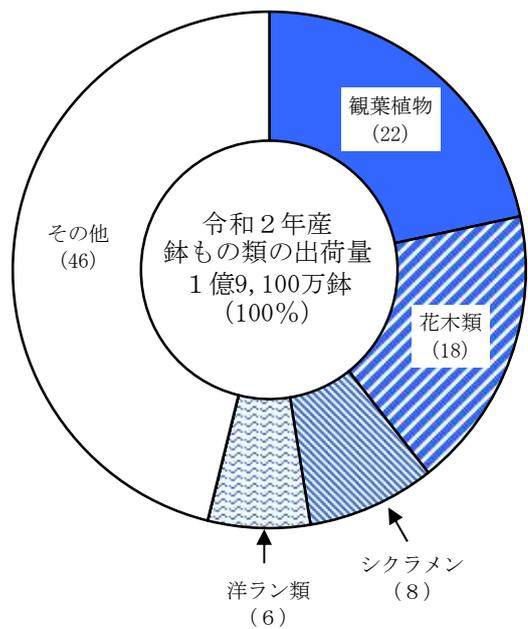


表 4 令和2年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

類・品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
鉢ものの類	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,503	19,100	97	93
うちシクラメン	162	1,540	97	97
洋ラン類	174	1,230	98	88
観葉植物	262	4,140	97	113
花木類	313	3,380	89	79

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

## ア シクラメン

収穫面積は162haで、前年産に比べ5ha（3%）減少した。

出荷量は1,540万鉢で、前年産に比べ40万鉢（3%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が13%で最も高く、次いで愛知県が11%、千葉県が6%、茨城県及び栃木県がそれぞれ5%となっている。

図 35 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

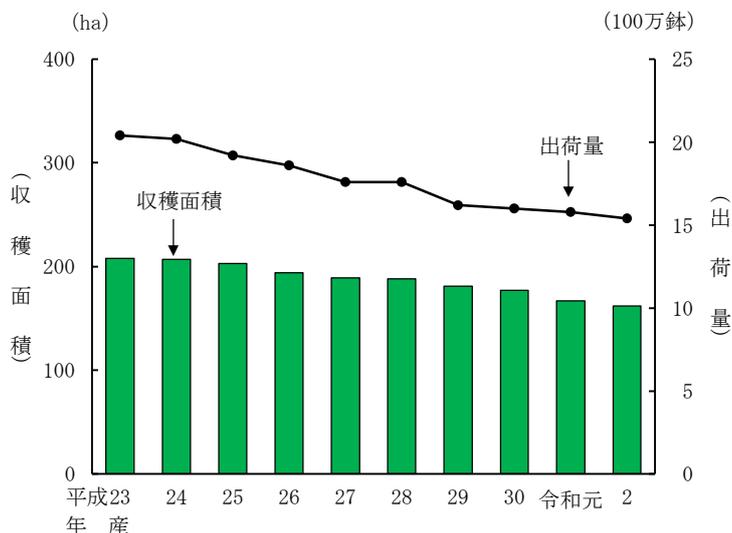
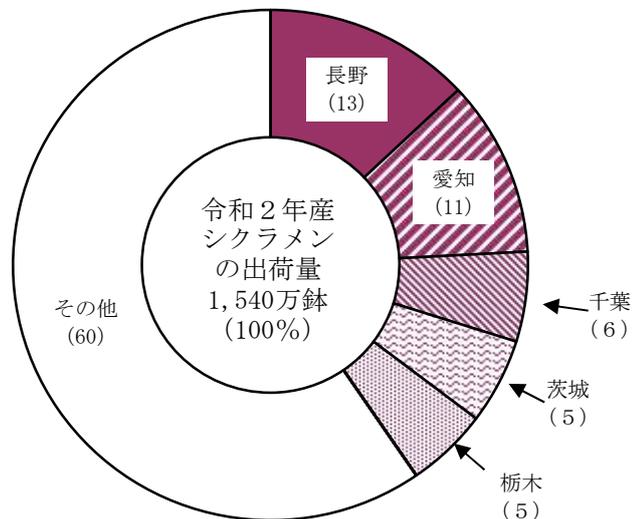


図 36 シクラメンの都道府県別出荷量割合



## イ 洋ラン類

収穫面積は174haで、前年産に比べ4ha（2%）減少した。

出荷量は1,230万鉢で、前年産に比べ160万鉢（12%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が24%で最も高く、次いで熊本県及び福岡県がそれぞれ9%、千葉県及び山梨県がそれぞれ6%となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

図 37 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

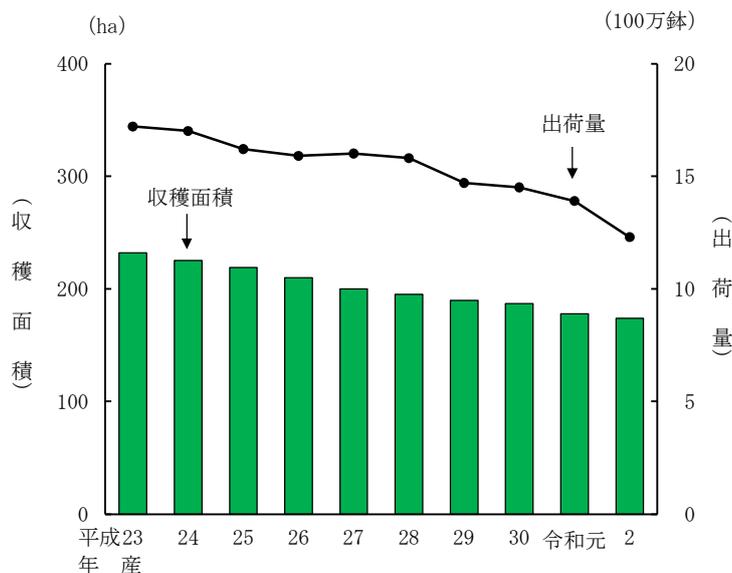
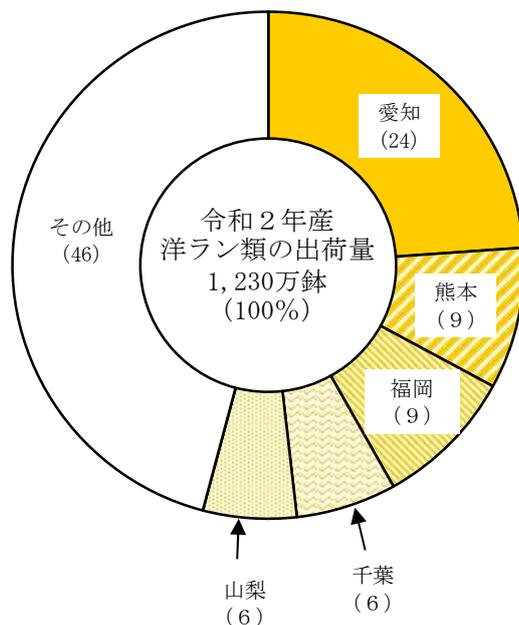


図 38 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



## ウ 観葉植物

収穫面積は262haで、前年産に比べ9ha（3%）減少した。

出荷量は4,140万鉢で、前年産に比べ460万鉢（13%）増加した。これは、収穫面積は減少したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自宅用を中心とした需要増加等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が49%で最も高く、次いで静岡県が12%、三重県が10%、鹿児島県及び千葉県がそれぞれ3%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 39 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

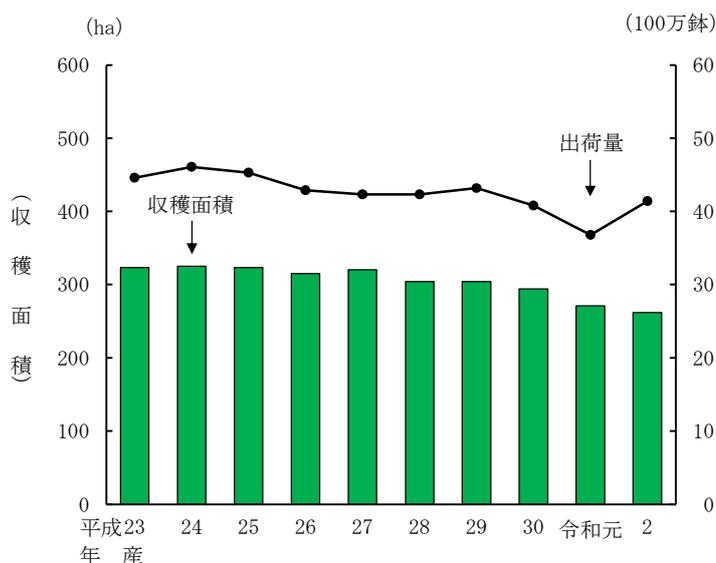
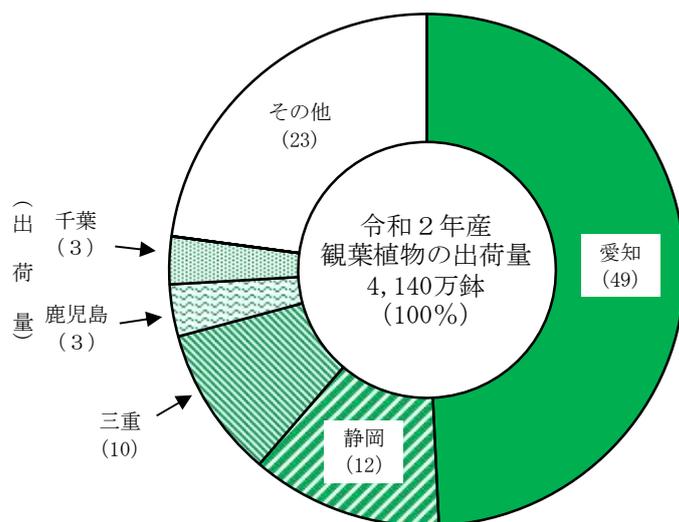


図 40 観葉植物の都道府県別出荷量割合



## エ 花木類

収穫面積は313haで、前年産に比べ38ha（11%）減少した。

出荷量は3,380万鉢で、前年産に比べ880万鉢（21%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が21%で最も高く、次いで新潟県が18%、岐阜県が15%、埼玉県が7%、静岡県が6%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図 41 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

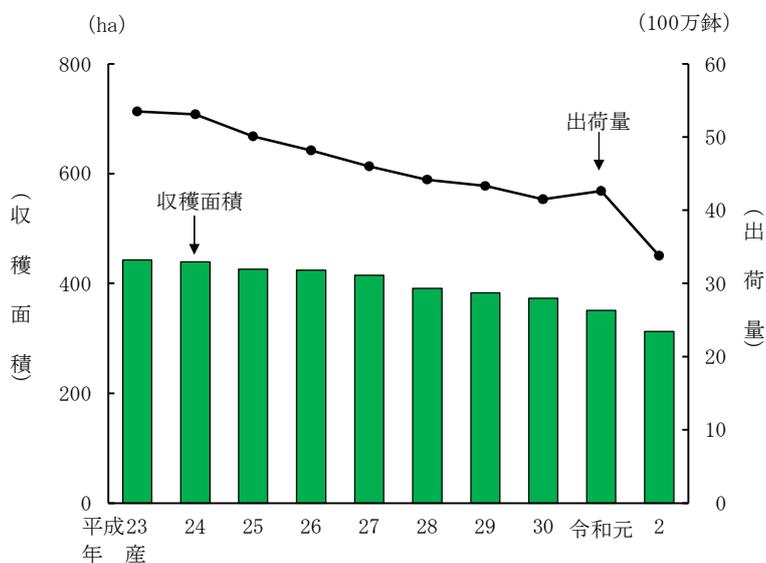
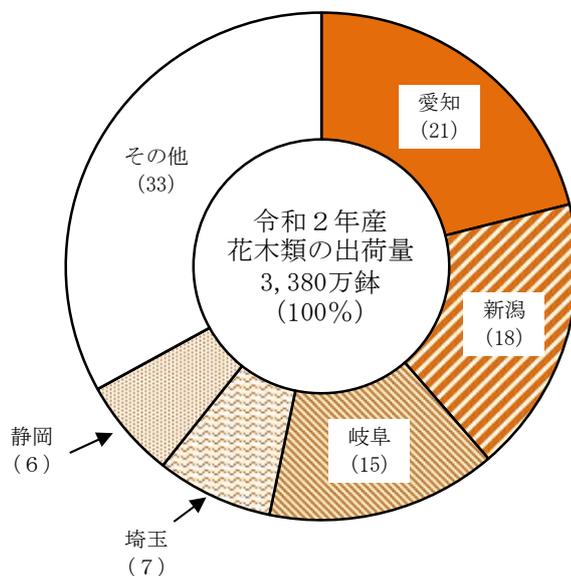


図 42 花木類の都道府県別出荷量割合



#### (4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,301haで、前年産に比べ26ha（2％）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模縮小等があったためである。

出荷量は5億6,560万本で、前年産に比べ1,340万本（2％）減少した。これは、作付面積の減少等があったためである。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が9％で最も高く、次いで愛知県及び千葉県がそれぞれ7％、兵庫県及び茨城県がそれぞれ5％となっている。

図 43 花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量の推移

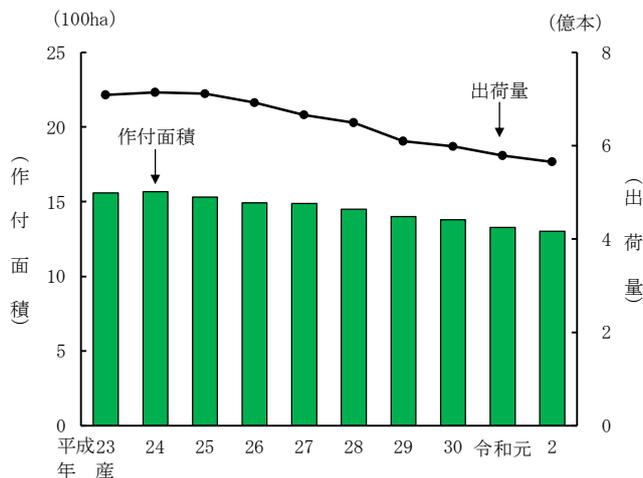
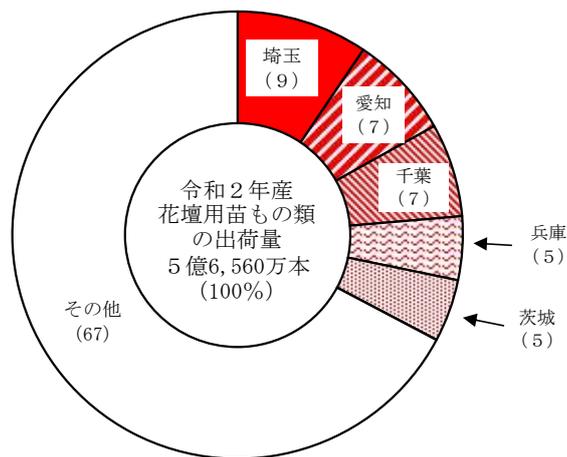


図 44 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は243haで、前年産に比べ9ha（4％）減少した。

出荷量は1億1,340万本で、前年産に比べ530万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は埼玉県が8％で最も高く、次いで神奈川県、三重県及び奈良県がそれぞれ6％、愛知県が5％となっている。

図 45 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

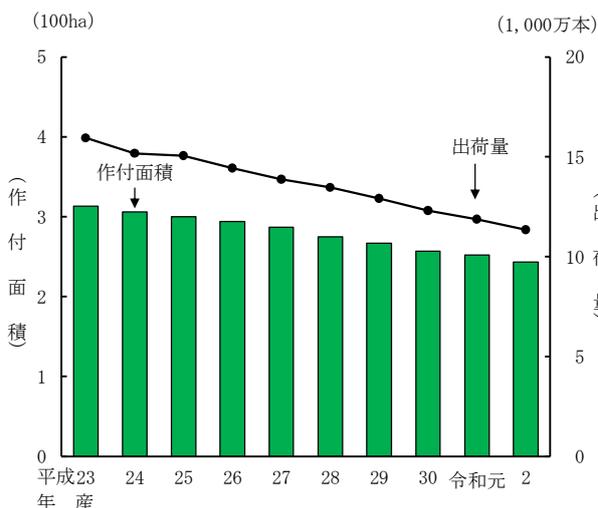


図 46 パンジーの都道府県別出荷量割合

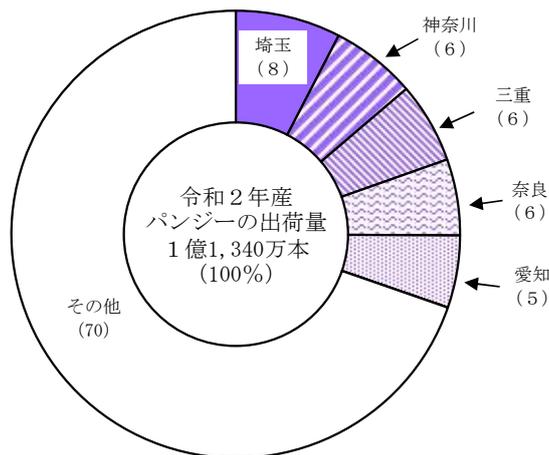


表 5 令和2年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
花壇用苗もの類	1,301	56,560	98	98
うちパンジー	243	11,340	96	96

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。